

山梨での初めての 親子ものづくり教室の開催

連合山梨金属部門連絡会 事務局長
(電機連合山梨地方協議会 事務局長) 渡辺 良一

2009年8月22日(土)に、連合山梨金属部門連絡会では初めての、親子ものづくり教室を、19組39名(内子ども20名)の参加で開催しました。

ようやく実施

各県で開催されている「ものづくり教室」を山梨でも開催したいと数年前から検討はしていたのですが、なかなか実施に至りませんでした。そんな中、2008年7月に連合長野の金属部門連絡会で開催した「ものづくり教室」を見学し、子どもたちの生き生きとした姿を見て、来年は必ず実施したいと固く心に誓ったのでした。

さて、今回の実施にあたり何を作ろうかと検討し、音のなるラジオがいいのではないかとということになりました。インターネットで調べて

みると、NHKでペットボトルを使ったゲルマニウムラジオの工作教室の記事があり、NHK甲府放送局に問い合わせたところ、技術部の方が快く指導を引き受けてくださいました。

部品はインターネットで手配(便利な時代になりました)、対象の子どもは、小学校4〜6年生と限定したため人数が集まるか心配していましたが、定員となり一安心しました。

スーパーコンピューターを作る工場の見学

第一部は、午前10時からNECコンピュータテクノ(株)にて実際のものづくりを見学しました。同社は、スーパーコンピューターやサーバーを作っており、最先端の技術や、カンバン方式の生産に感心していま



NEC コンピュータテクノ見学

た。質疑では、子どもより親からの質問の方が多く出され、子どもにはちょっと難しかったかもしれませんが、昼食も社員食堂で食べさせてい



ただくなど貴重な経験ができました。

ラジオの製作スタート

午後からは、NECコンピュータテクノ(株)の隣にある県中小企業人材開発センターに移動し、いよいよメインのものづくり教室です。

NHK甲府放送局技術部の方3名の指導によりスタート。ゲルマニウムラジオは、電池を使わない簡単な構造ですが、ペットボトルにエナメル線を60回巻く作業が大変で、見ると親が一生懸命巻いています、「子どもたちに作らせてください」と言ったもののつつい手が出てしまいました。巻き直しをして苦労した親子もいましたが、作業は1時間程度で完了しました。

さて、いよいよ実際に聞こえるかです。アンテナを外部に設置し、線

「ものづくり大国」日本 ～ものづくりの魅力を伝えるために～



みんな真剣です



ちゃんと聞こえるかな？

親子で共同作業



全員で記念撮影



を部屋に引き込み接続するコーナーを設置しました。完成品をアンテナに繋げてドキドキしながらイヤホンに耳にあて、音が聞こえた時の子どもたちの笑顔と輝いた目が印象的でした。全員のラジオから音が聞こえました。

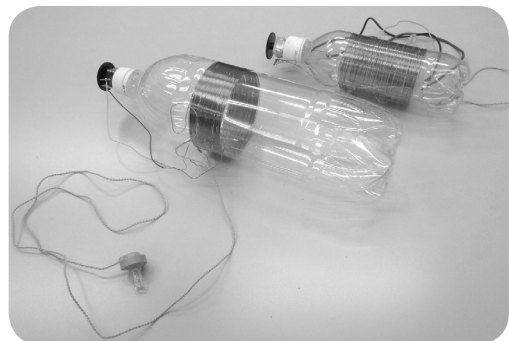
も社会貢献の一部ですから」と丁寧なご指導をいただき助かりました。

子どもの笑顔を楽しみに、恒例の行事にしていきたい

最後にアンケートを実施しました。親からは「完成したラジオの音が聞こえると、くくやっやくと笑いと、もうれしそうでした」「子どもとのコミュニケーションがとれました」など、子どもからは、「はじめは苦労

したけどラジオの音が聞こえたときはうれしかった」「電池もないのに音が聞こえてびっくりした」「次はロボットが作りたい」など多くの感想をいただき、ものづくりの楽しさを知ってもらえたかなと感じました。

夏休みの工作として学校に提出した子どももいたと聞き、夏休みの良い思い出にもなったと思います。子どもの笑顔を楽しみに、恒例の行事となるよう来年も開催していきたいと考えています。



完成したペットボトルのラジオ